

「児童虐待対応のための専門実務研修」日程表

	9:30	10:30	12:00	13:00	15:00	16:30
10/25 (火)	開 事前作成のフェイスシートに基づいて、参加者が自由に意見交換する。	グループワーク I 講義 I 「市町村における児童虐待対応力の向上について」 中央・高田こども相談センター職員 市町村において増加しつづける相談件数。日常業務をこなす中での児童相談においてリスクアセスメント等重要な業務を誤りのないよう遂行する必要があります。どのような視点を持って児童虐待に対応するのか考えます。	休憩	講義 II 「母子保健分野における児童虐待対応力の向上について」 大阪府立母子保健総合医療センター 企画調査部長 佐藤 拓代 氏 奈良県児童虐待対策検討会委員。今回検討会が実施した「未受診・未就園乳幼児状況調査」の分析等を担当して頂いた。分析からわかった課題、保健機関による虐待発生予防の介入についてご講義頂きます。	講義 III 「発達障害の理解とその対応について」 奈良教育大学 准教授 根来 秀樹 氏 児童虐待の発生リスクにつながることもある発達障害。児童相談を担当する実務者が知っておくべき発達障害に関する知識をわかりやすく講義頂きます。また実際の児童精神科医から診た児童相談にかかる必要な視点を教えて頂きます。また虐待児にみられることが多い愛着障害についても言及頂きます。	
10/27 (木)	グループワーク II 各市町村が児童相談において困難と考える課題を出し合い、整理する。	講義 IV 「市町村における児童虐待対応の法的課題について」 いぶき法律事務所 弁護士 岩佐 嘉彦 氏 児童家庭相談の困難度が高くなっており、時によって児童家庭相談をめぐる様々な法的対応が必要となる。岩佐弁護士は全国の自治体職員を対象とした研修に関わっておられる著明な講師です。	休憩	講義 V 「熊取町の子ども家庭相談体制について」 熊取町子ども家庭課子ども相談グループ グループ長 瀧本 美子 氏 大阪府南部にあり大阪市内までJRで35分に位置する人口44,500の町。児童福祉法改正後、様々な取組をして来られました。妊娠届が出されてから18歳未満まで切れ目のない支援を実施、個別ケース会議を年間100回開催するなど市町村の児童家庭相談としては際だった取組を展開されています。	講義 VI 「虐待による乳児重症頭部外傷について」 奈良県立医科大学 脳神経外科学 講師 朴 永銖 氏 深刻な結果をもたらすの頭部への児童虐待。何例も対応されてきた専門医より臨床の実際、患児や家族の援助について講義頂きます。また、関係機関との連携の重要性について指摘を頂きます。	
10/31 (月)	講義 VII 及び グループワーク III 「電話対応における虐待リスクアセスメントについて」 千里金蘭大学 生活科学部児童学科 准教授 宮里 慶子 子ども本人、親、親族、近隣……。今や虐待通報の発信者は多岐にわたります。電話で重要な児童虐待の情報がもたらされた場合、どのように対応するべきか。大阪府下の自治体で相談員をされた経歴を有する講師から講義頂き、ロールプレイを行います。		休憩	講義 VIII 及び グループワーク IV 「事例検討 ～市町村、児相、関係機関の連携の重要性について～」 関西学院大学人間福祉学部 教授 才村 純 氏 奈良県児童虐待対策検討会委員。政府の社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会委員長など、児童虐待の対応に関し重要な活動をされています。グループで事例を話し合い、対応を検討するなかで、具体的な機関連携のあり方、多機関におけるリスクアセスメントの重要性を講義、グループワークして頂きます。		閉 会